

日本知財学会誌 参考文献の記載例

<書籍の場合>

野中郁次郎(1974)『組織と市場—組織の環境適合理論—』千倉書房.

野中郁次郎・加護野忠男・小松陽一・奥村昭博・坂下昭宣(1978)『組織現象の理論と測定』千倉書房.

Nonaka,I. and H.Takeuchi (1995) *The Knowledge-Creating Company: How Japanese Companies Create the Dynamics of Innovation*, New York: Oxford University Press (梅本勝博訳『知識創造企業』東洋経済新報社, 1996年).

和文の場合

著者名1・著者名2(発表年)『書籍名』出版社名.

欧文の場合

英文論文は下記のように記載し、FirstName(およびMiddle Name)は先頭のアルファベット1文字に略し、書籍名はイタリックもしくは斜体にしてください.

Last Name, First Name(Date of Publication), *Name of the Book*, Name of the Publishing Company.

となります.

<書籍のうち特定の章の場合>

竹内弘高・野中郁次郎(1986)「新製品開発の戦略と組織」, 今井賢一編著『イノベーションと組織』東洋経済新報社, pp.97-126.

Imai,K., I.Nonaka, and H.Takeuchi (1985) “Managing the New Product Development Process: How Japanese Companies Learn and Unlearn,” in K.B.Clark, R.H.Hayes, and C.Lorenz (Eds.), *The Uneasy Alliance: Managing the Productivity-Technology Dilemma*, Boston: Harvard Business School Press, pp.337-375.

和文の場合

著者名1・著者名2(発表年)「章タイトル」『書籍名』出版社名, pp.開始頁-最終頁.

欧文の場合

英文論文は下記のように記載し、FirstName(およびMiddle Name)は先頭のアルファベット1文字に略し、書籍名はイタリックもしくは斜体にしてください.

Last Name, First Name(Date of Publication), “Title of the Chapter,” *Name of the Book*, Name of the Publishing Company, pp.○-○.

となります.

< 定期刊行物の場合 >

野中郁次郎 (1976) 「コンティンジェンシー理論の構造・展開・意義」『組織科学』第10巻第4号, pp.15-25.

Nonaka, I. (1994) “A Dynamic Theory of Organizational Knowledge Creation,”
Organization Science, Vol.5, No.1, pp.14-37.

和文の場合

著者名1・著者名2(発表年)「論文タイトル」『掲載誌名』第○巻第○号, pp.開始頁-最終頁.

欧文の場合

英文論文は下記のように記載し、FirstName(およびMiddle Name)は先頭のアルファベット1文字に略し、書籍名はイタリックもしくは斜体にしてください.

Last Name, First Name(Date of Publication), “Title of the paper,” *Name of the Journal*, Vol.○, No.○, pp.○-○.

となります.

< Web 上の公開資料の場合 >

引用先が論文ないしこれに準ずる文書である場合については、論文の引用方法を参考にしてください。引用先がそれ以外の文書である場合については、最終閲覧日を記載してください。